

1 公共交通の維持に向けた論点整理

区は、令和3年度に中野区交通政策推進協議会を設置し、交通政策に係る方針や計画、マネジメント戦略を策定したところである。これまで、シェアサイクル事業や公共交通サービスレベルの低い地域（若宮・大和町）の実証運行を進めてきたが、今年度から現在進めている事業に加え、「既存の公共交通の維持」に着眼し、区民の興味関心を高められるような公共交通の利用促進策を検討していく。



まず、既存の公共交通を維持するために、論点を需要側と供給側に分けて、右図2のとおり整理した。需要側の主な論点は、人口問題・ライフスタイル・情報発信不足・移動利便性、供給側の主な論点は、人材不足・インフラの問題・公的資金の不足・技術・制度課題が挙げられる。

次に、整理した論点の中から、
①区民の公共交通への興味関心、
②公共交通の利用促進の2項目を、今後、区が取り組むポイントとする。また、公共交通の維持に向け、運転士が確保された状況の下、右図1(赤色)の好循環になることを理想とする。

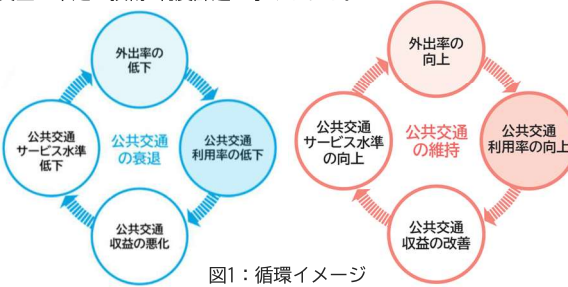
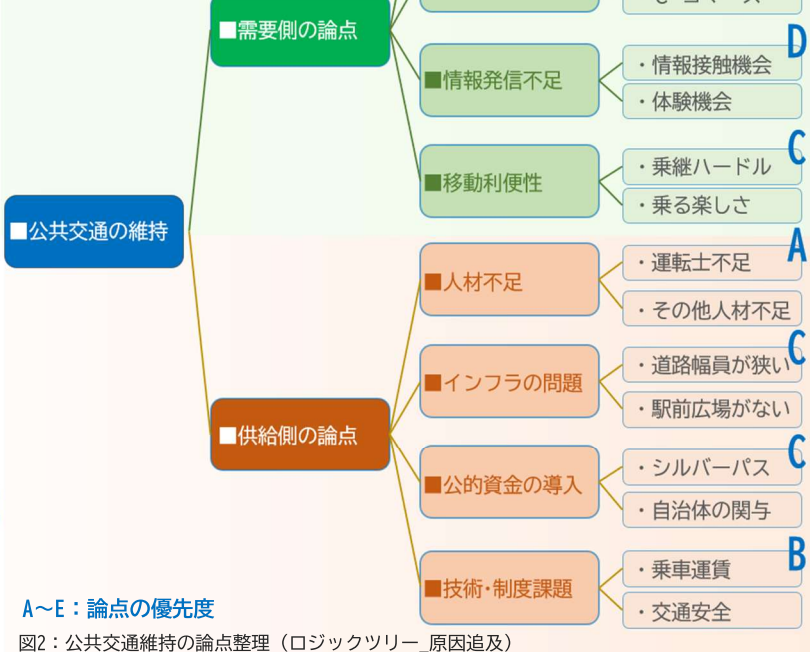


図1：循環イメージ

※ 主に路線バスの視点で整理している状況。
今後、公共交通全体の検討を進める上で、鉄道事業者・タクシー事業者の考えや課題等も本協議会で伺いたい。



A～E：論点の優先度
図2：公共交通維持の論点整理（ロジックツリー_原因追及）

- 中野区の将来人口推計は、2040年をピークに総人口が減少し、2060年に2020年の人口を下回ると見込まれている。
- 高齢者の人口は、2045年におおよそ4人に1人の割合と推計。
- 公共交通の利用者数に影響が及ぶ時期は当面先の見込み。
- テレワークやe-コマースの普及で、外出人口が減少。特に若年層の減少幅が大きい。
- コロナ前までの利用者数に、人口増の中でも戻らない。
- 区内を発着する移動の総量を増やすことが、重要となる。
- 各交通事業者がHPやイベントを開催し、公共交通オープンデータセンターにも情報を提供している。
- 利用者は、経路検索事業者のアプリやサービスを通じて、主に交通情報に接している。
- 区の発信は現在、転入者向け案内のための、工夫が必要。
- 鉄道・バスで1日バス等があり、鉄道は乗継割引がある。
- バスの乗継割引適用は、システム上、困難な面がある。
- 各事業者、ポイント活用、スタンプラリー等促進策を実施。
- 共同により、公共交通の乗継等で、ポイント当選等を検討。
- 平均年齢が高く、退職者数が新規採用数を上回る。
- 運転士だけでなく、整備士・運行管理士も不足も懸念。
- 各事業者、HPに力を入れる他、転職イベント等に参加。
- 区のHP等にバス運転士に関する情報を掲載。
- 車道幅員5.5m以上の割合が16%（23区最下位）。
- 中野駅新北口・南口、新井薬師前駅、沼袋駅に広場予定。
- 鷺ノ宮駅、野方駅に広場計画予定。
- 整備される基盤の有効活用には各まちづくりと連携が必要。
- シルバーパス利用者の実態把握が難しい。R7年度東京都予算で、交付(230億円)・交通系IC化(54億円)が付いているが、年々申請者が増え、負担も増加している。
- 公共交通事業が、民間主導の運営のため、原則、利益追求型のネットワーク構築となる。
- 区はR3年度に協議会を設置し、交通政策の検討を始める。
- バス運賃は認可制で、また公共性が強く、インフレ禍でも、急激な値上げは社会的に許容されにくい。
- 路駐や自転車の利用、キックボード・電動バイクのルール・マナー違反がバスの安全な運行に支障をきたしている。

2 中野区の総トリップ数・外出率の現況（需要側の論点）

図1循環イメージの現況把握として、需要側の論点である外出に着目し、区の移動実態に係るデータを図3～5に示した。区の人口は、平成20～30年にかけて、約4万人増加しているのに対し、区を発着する移動は約3万トリップ減少している。新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降、テレワークやe-コマースの普及等により、更なる外出率の減少が見込まれる(下図3)。年齢別に着目すると、若年層の外出率が、20代で12.1%、30代で9.2%減少している(右図5)。また、全体的に60代以降から外出率が減少する傾向にある一方(右図5)、最近では昔と比べ、高齢者の外出頻度が増加傾向にある(下図4)。

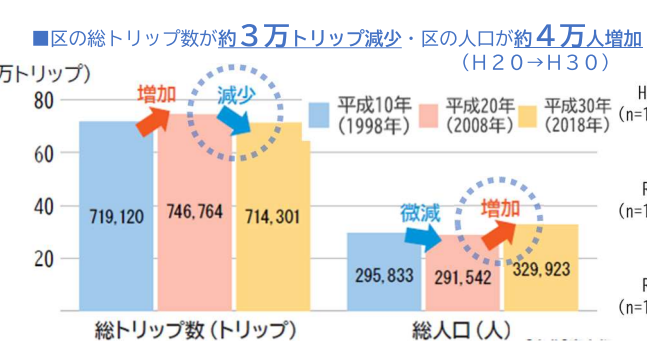


図3：総トリップ数と総人口の推移【出典】東京都市圏パーソントリップ調査

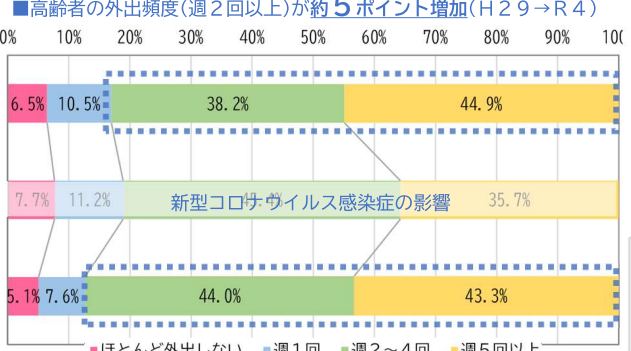


図4：週当たりの外出頻度(65歳以上)【出典】高齢福祉・介護保険サービス意向調査

■20～30代の外出率が約10%低下(H20→H30) ■60代から外出率が低下

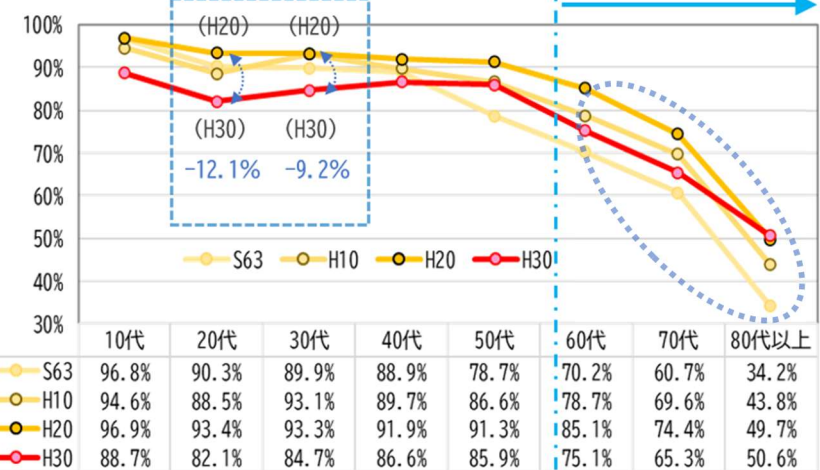


図5：年齢・年代別外出率の推移【出典】東京都市圏パーソントリップ調査

